

**令和3年度タウンミーティング**  
**「市民環境力によるゼロカーボンシティの実現に向けて」**

- 1 開催日時 令和3年11月27日（土）14：00開演 16：00終了
- 2 開催場所 北九州市立商工貿易会館 2F多目的ホール  
オンラインはZoomにて配信
- 3 プログラム <<第一部>>  
市長講演「ゼロカーボンシティを目指して」  
北九州市長 北橋 健治  
基調講演「気候変動による身近な生活への影響」  
日本気象協会九州支社 気象予報士／防災士 松井 渉 氏  
<<第二部>>  
パネルディスカッション「私たちがつくるゼロカーボンシティ」  
●モデレーター  
日本気象協会九州支社 気象予報士／防災士 松井 渉 氏  
●パネリスト  
北九州市長 北橋 健治  
北九州市コンポストアドバイザーの会会長 中島 千雅 氏  
若松秋桜会代表 久永恵美子 氏  
北九州市立大学 地域創生学群 グリーンバード北九州チーム  
園田 彩乃 氏  
弓削 美里 氏  
福岡教育大学附属小倉中学校 生徒会 渡辺颯太郎 氏  
内田 麻桜 氏  
持溝 悠晴 氏  
藤田 彩花 氏  
<<閉会挨拶>>  
北九州市長 北橋 健治

緑マーカ―は不明な語句となります。

MC：皆様にご案内をいたします。

まもなく、14時より、令和3年度タウンミーティング「市民環境力によるゼロカーボンシティの実現に向けて」を開会いたします。

ご来場の皆様にお願ひがござひます。

携帯電話をお持ちの方は、講演中、恐れ入りますが、電源をお切りいただくか、マナーモードへの設定をお願ひいたします。

本日受付にてお配りしました資料の中に、アンケート用紙を同封しております。ご記入いただき、お帰りの際に出口の回収ボックスにご提出ください。

また、入り口のドアに、アンケート用のQRコードを掲示しております。スマートフォンをお持ちの方は、読み取っていただきましたら、こちらからアンケートにお答えいただけますので、どうぞお好みの方法でご協力のほどよろしくお願ひいたします。

また本日は、カメラやビデオでの撮影、また録音はご遠慮いただひております。

なお、本講演につきましては、福岡県および北九州市の基準に従ひ、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施してまいります。

本日ご参加の皆様におかれましても、マスクの着用や、三密の回避など、ご協力をお願ひいたします。

本日は会場だけでなく、オンラインでも多くの方々にご視聴いただひております。

本日のご講演をどうぞお楽しみください。

それでは開会まで今しばらくお待ちください。

皆様、大変お待たせいたしました。

ただ今より、令和3年度タウンミーティング「市民環境力によるゼロカーボンシティの実現に向けて」を開会いたします。

まずは、本日のプログラムをご説明させていただきます。

この後、第1部としまして、北九州市長北橋健治より「ゼロカーボンシティを目指して」をテーマに講演を行います。

第2部では、日本気象協会九州支社気象予報士であり、防災士でもいらっしゃいます、松井渉様をお招きし「気象変動による身近な生活への影響」をテーマに基調講演を賜ります。

それから15分の休憩をはさみまして、15時5分頃から「私たちがつくるゼロカーボンシティ」と題し、10名のモデレーター、パネリストの方々にご登壇いただきパネルディスカッションを行います。

最後に、閉会挨拶ののち、終了は16時を予定しております。

それでは早速、北橋市長より、「ゼロカーボンシティを目指して」と題しまして講

演を行います。

北橋市長、よろしくお願いいたします。

## 市長講演 ゼロカーボンシティを目指して

北九州市長 北橋健治

皆様こんにちは。今日は、お休みのところタウンミーティングにご参加を頂き、また、オンラインの配信で視聴いただいている方もいらっしゃると思います。誠に有難うございます。脱炭素社会という世界の共通の目標に向かって、今日は皆様と一緒に意見交換できることを、大変楽しみにしております。

まずは、私からは、北九州市のゼロカーボンシティに向けた取り組みについて、紹介をさせていただきます。あと14分30秒でございます。よろしくお願いいたします。

お手元の資料、またこの画面をご覧くださいながら前に進めて行きたいと思いますが、とにかく世界の気象災害は年々酷くなってきているように感じます。ニュースなどでみなさんも「気候変動」という言葉を耳にすることが多くなってきていると思います。世界各地で気候変動によって、大規模な森林火災、あるいは洪水が発生しております。世界はまさに気候の危機に直面をしていると言えるでしょう。

国際機関に IPCC という非常に権威のある世界の科学者で構成をされた機関がありまして、今年の8月に発表した大事なことがあります。初めてこういうことを言っております。「人間の影響が温暖化させてきた事は疑う余地がない」ということであります。

これまでも、多くの科学者また環境や自然災害を真剣に考える人の間では、地球はどんどん温暖化をして気候が変動して、そして災害が多発するのではないかという事はみな感じていたのですが、このように国際的な有力な機関において科学者が声明を出した。間違いなくこの温暖化が原因なんだと言い切った事は初めてでありまして、改めて、私たちは否応なくこの問題に直面していくわけでありまして、

次に、日本における気候変動の影響であります、右側にリンゴが並んでいます。そういえば、我が家の食卓にあるリンゴも赤みがないのですが、昔は赤いリンゴに唇寄せと、こういう時代があったのですが、確かに色が変わってきていると感じます。これは、日本国内におきましても気候変動への影響が幅広く現れてきている一例ではないか。

日本の平均気温は、ここ数年毎年最高の値を更新しております。気候の上昇によりまして、お米の品質が低下したり、リンゴの色付きが悪くなったりと、身近な食卓にも影響が開始しております。このように気候変動は、私たちの安全で安心な暮らしを脅かしつつあるのではないかと思います。

次に、こういう問題に世界各国はどう対応しているのか。そのなかでパリ協定という重要な対話が行われました。世界中でこの気候変動問題に取り込む動きが加速しておりますが、2016年にはすべての国が参加をいたしまして、温室効果ガス排出を削減するための国際枠組みをつくりました。パリ協定と呼んでおりまして、それが発行しました。

このパリ協定におきましては、世界の気温上昇を 2 度よりも十分低く保つ。1.5 度に抑える努力を追求することが掲げられておりまして、今、世界中はこの目標に向かって取り組みを進めております。

次に、日本国内の動きを列記いたしております。日本におきましては、昨年 10 月に当時の菅総理が決断しまして、2050 年にカーボンニュートラル、実質、温室効果ガスゼロにするということを宣言したことが大きな転換点となっております。その後、今年 4 月になりまして、2050 年はずいぶん先の話です。当面、2030 年度までに、あと 9 年あるわけですが、温室効果ガスを 46%削減するという政府目標を発表いたしました。それを踏まえまして、今、法律や政府計画の改定など制度整備が鋭意進められているところであります。

次に、諸外国の動きを見てまいりたいと思います。円グラフの中身をご覧いただきたいと思います。地球温暖化をさせている温室効果ガスですが、どこの国からたくさん出てくるか。なんと言っても中国であります。続いてアメリカです。インド、ロシア、これで半分を超えております。従いまして、世界中がこれから脱炭素化に取り組むわけですが、このビック 4 の大きいところが真剣にやってもらわないと、他のヨーロッパや日本が血眼になって頑張っても限界があるわけでありまして、とりわけ、中国とインドはこれからのエネルギーの長期消費の見通しを見ても、まだまだ相当にエネルギーの消費が増える。つまり、CO<sub>2</sub> の排出が増えていくと見込まれておりますので、これがまず世界の現実であることを改めて見ておかねばなりません。

そこで、世界の主要の排出国でありますアメリカ EU でも、意欲的な削減の目標を掲げております。特に、アメリカは民主党系と共和党系がいつも国民を 2 分する大統領選を展開しておりまして、この地球温暖化対応につきましても、政権交代によって時々どうなるのかよくわからなかったわけではありますが、バイデンさんが就任してからは、明確に世界と強調して温暖化対策に取り組む姿勢を明確にしまして、トランプさんが抜けていたパリ協定にアメリカは復帰するという結論を出しました。

そして、温室効果ガスの削減目標を引き上げておりまして、積極的な姿勢を見せております。

次に、本市の歴史を振り返る時に、温暖化対策の前からどのように環境問題に取り組んできたか。皆さん、よくご案内のとおりであります。日本を代表する産業の街として発展を致しました。石炭と鉄のまち、港湾と鉄道のまちとも言われました。石炭と鉄は日本の近代化を牽引した重要な産業でありまして、その産業都市として北九州は繁栄をいたしました。そして、深刻な公害に見舞われ、市民・企業・行政がお互いに力を合わせて、とりわけ婦人会、女性のイニシアチブによりまして、この市民のチームのチームワークがしっかり出来上がって、見事に公害を克服した。この歴史は北九州市民の誇りとするところであります。

この公害克服の経験で市民の環境力はしっかりと培われました。本市のかけがえのない財

産であり、今に息づく DNA であります。この力を結集してこれまで、例えば、ゴミを減らす。あるいは、リサイクル、資源循環の日本で最初の基地を建設する。そうした様々な努力と日本の環境技術、ノウハウを世界にどんどん移転をして、その国際貢献に先頭きって頑張ってきたという歴史があります。

次に、これまで政府から環境のモデル都市を始めといたしまして、そうした市民力に対して内外の高い評価をいただいていたわけでありまして、そこに書いていますように、環境モデル都市に選ばれ、環境未来都市となり、現在は SDGs 未来都市という名前で政府から選定されております。

さて、昨年の 10 月に本市はゼロカーボンシティを宣言いたしております。これは、産学官、市民、みんなで力を合わせて脱炭素化、ゼロカーボンシティを目指すという宣言でありまして、そしてまた同時に、市議会におきまして、全会一致で気候非常事態宣言というものが採択をされ、行政といたしましても今年の 6 月に気候非常事態宣言を発表いたしました。これが昨今の本市の取り組みであります。

さて、北九州市の削減目標であります。2050 年は政府と同じくカーボンニュートラルの目標であります。そのため、マスタープランであります地球温暖化対策実行計画を改定いたしまして、2030 年度の目標といたしまして、それまでに 2013 年と比べて 47%以上温室効果ガスを削減するという目標にいたしました。産業都市ですからこの目標のハードルは低くはありません。大きな挑戦となります。しかし、近代産業発祥の地である本市が、率先してこのテーマに取り組み、そして大事な事は、環境だけではなく環境と経済の好循環、この成功モデルを目指していくわけでありまして、この北九州モデルは必ずや国内外の大きなモデルになると、意義を持つと考えております。

次にテンゼロカーボンシティの実現に向けまして、一言で言うと脱炭素化を軸にして、都市の競争力、企業の競争力を高めることでもあります。そして、市民生活の面では、快適で災害に強い暮らしやすいまちになるということでありまして、そのために 5 つの柱をかけております。エネルギーの脱炭素化、イノベーションの推進、重点を置いたグリーン成長戦略を推進することになります。

そこで、風力発電ということに取り組んでおります。これは 10 年前から取り組んできたビックプロジェクトでありまして、日本においてははじめての洋上風力の拠点を目指すというプロジェクトです。国から西日本唯一の基地港湾に指定されました。ここには産業用地があり港湾のインフラがありまして、ここに産業の総合拠点化を目指しております。来年着工で、3 年間で 25 基建てる予定で準備を鋭意進めております。

これは、雇用も生まれます。新たな産業も生まれます。そして、電力エネルギーが再生エネルギーへと大きく踏み出していききっかけとなります。

次に、もう 1 つの大胆な方針をすでに出しております。公共施設がたくさんあります。2,000 ほどありますけども、これの電力はすべて再生エネルギーで賄うという方針を決定しております。国は 2030 年までにという目標ですが、私どもは 2025 年まで、5 年以内にこ

れを完了するという方式で、このやり方を周辺の市や町にも伝え、アジアの都市にも伝えるという、まずは公共施設から再エネ 100%を実現し、そして、その方式を民間企業にも伝える、その方針を確認しております。

次のページに、ベトナムハイフォン市は姉妹都市です。姉妹都市になったきっかけは、水道の技術協力、環境の技術協力がきっかけです。ここに本市の再エネ 100%北九州モデルをハイフォン市の工業団地に移転する準備を進めています。

次に、アジアとのパートナーシップは環境面で非常に大事にしてきたところでありますけれども、これはたくさんの研修生を受け入れ、専門家を派遣してまいりました。何処の国もゴミの問題、あるいは上下水道の問題、そういったことに悩んできておりまして、必ずやこの技術、ノウハウを北九州から移転することによって、友好関係はさらに深まりますし、いろんな意味でアジアの脱炭素化に役立つものと思っております。

加えて、ゼロカーボンシティに向けましては、そこにございますように各ご家庭からCO2 が排出されております。自動車や家電、冷暖房、これを見てまいりますと、国の方針ではこれを3分の2は減らさないといけないという方向ですけれども、例えば、これが今日の意見交換の1つの柱になると思っておりますが、今度、皆さん車を買換えるときは、もうガソリン車はこれが最後の機会とさせていただいて、電気自動車もしくは水素自動車の時代は2030年度までにやってくると思っております。そして、どんどんLEDを使っております。今、家電製品は非常に効率性の良いもの、省エネのものがありますので、今度買換えるときにそれをどんどんやります。こまめに電気を消すとか、そういうことも併せまして、相当程度CO2は減らしていかなければいけないと考えております。

ですから、公用車もできるだけ早く全てEV、あるいは水素に変えまして、EVの場合はそこで蓄電池の役割を果たしますので、何か災害になったときにそこで電気を使うとか、そのように我々行政も率先垂範して脱炭素化の具体的な取り組みにチャレンジをしたいと思っております。

この2050年、その前の3030年という目標に向かって着実に進めるには、市民参加による取り組み、みんなの理解と協力、この市民環境力が試されていると思っております。そのことが世界のSDGs達成に貢献するものでありまして、北九州市が誇りを持って進めていくこれからのまちづくりだと思っております。ご清聴、ありがとうございました。

MC：北橋市長、どうもありがとうございました。

それでは続きまして、基調講演に参りたいと思っております。基調講演は、日本気象協会九州支社気象予報士であり、防災士でもいらっしゃいます、松井渉様より、「気候変動による身近な生活環境への影響」と題しまして、ご講演を賜ります。それでは松井様、どうぞよろしくお願い致します。皆様、拍手でお迎え下さい。

## 基調講演 気候変動による身近な生活環境への影響

日本気象協会九州支社 気象予報士／防災士

松井 渉 氏

こんにちは。日本気象協会の松井と申します。TV で天気予報などしておりますけれども、本日は気候変動による身近な生活環境への影響ということでお話をしたいと思います。みなさんも昔に比べるとずいぶん気候が違うなと感じられている方が多いのではないかと思います。私も日々天気予報をしておりますが、例えば夏ですと、今、最高気温 35 度という数字が普通に出てきます。今、猛暑日という名前は付いておりますが、昔はこの 35 度という数字はほとんどなかったのが名前がなかったのですけども、35 度というのが日常的に出るようになってきたということで「猛暑日」という名前で天気予報では表現しております。

それから、雨もこのところ毎年大変な大雨で被害が出ております。これも私たちが天気予報の予想でいろいろな資料を見て予想していますが、大量の水蒸気が日本列島を、特に九州に流れ込んできて大変な大雨が降るという状態が増えております。そういったことについて、今日はお話をしていきたいと思っております。

今日は 3 つです。大きくお話をします。まず 1 つは、新しい平年値と温暖化ということで、「平年」という言葉が天気予報で日々出てくると思いますが、実はずっと同じではなくて 10 年に 1 回変わります。今年ちょうどその変わる年だったんです。その変わったことにも温暖化の影響が出ておりますので、その話をしたいと思います。

それから 2 つ目は、地球の温暖化、そして気候です。私たちの身近な気温とか雨がどう変わっているのかというお話をします。

そして 3 つ目は、先程の北橋市長のお話にも出てまいりました IPCC の第 6 次評価報告書、この内容について少しお話をしたいと思います。

それでは次、新しい平年値と温暖化ということで話が進めてまいります。この平年値ですが、天気予報で出てきますけども、その例として、こちら 3 カ月予報を持ってまいりました。3 カ月予報は毎月 25 日ごろに出ておまして、これは今週発表された最新の 3 カ月予報です。来月 12 月から来年 2 月までの九州北部の天候の予報になっておまして、まず天気としては、12 月と 1 月 2 月、全般に同じような傾向です。「平年と同様に曇りや雨、あるいは雪の日が多いでしょう」という予報です。

そして、気温と降水量、グラフがありますけども、これも平年と比べてどうかということで予報を発表しております。気温のところは 3 ヶ月とありますが、これは 12 月から 2 月まで、冬全体を通した平均した気温の予想でして、青いところに 50 という数字がありますが、平年より低い確率が最も高く 50%ですよ、という予想になってまいります。

そして、月別の数字がありまして、来月 12 月はやはり平年より低い確率 50%ということで、寒い 12 月になりそうだという予想です。

そして、1 月は平年より低い、そして平年並みというのがそれぞれ 40%ということで、傾

向としては平年並みか低いという傾向で見えておまして、そして、2月、低いのが40%、平年並みが30%、高いのが30%ということで、同じぐらいですので大体平年並みの傾向かなということでは今のところ予想しております。

降水量も同じようにグラフがありますが、こちらは3ヶ月間通して、それから毎月の値、いずれも今のところはほぼ平年並みという風に予想しております。

この冬ですけれども、普段の天気予報などでも聞かれた方がいらっしゃるかもしれませんが、ラニーニャ現象、太平洋東部、ペルー沖の海面水温が通常より低くなるという現象が今起こっております、この現象が起こると九州の冬は寒気の影響を受けやすくなります。ですので、この冬については、九州は寒い冬になりそうだということで予想しております。最近、11月もすでに寒い日が多くなっておりますけれども、来月以降、また寒さが厳しくなってくると思いますので、その点ご注意頂きたいと思います。

こういう風に、長期予報、冬の予報、こういったところで平年との比較で出しておりますし、普段の天気予報でも「今日の気温は平年より何度高かったですよ」という風に平年を使っておりますけれども、この平年値というのがどういうものかというのがこちらです。気温や降水量などの平均的な値。これぐらいが普通の天候ですよということで設けているのが平年値です。この平年値ですが、30年間の平均の値を使いますという決まりになっていまして、そして、10年ごとに新しい値に変わっていきます。この10年事というのがちょうど今年です。下一桁が1の年というのが新しい平年値に変わる年です。

古い平年値というのは、1981年から2010年までの平均を使っておりました。それが今年の5月から新しい平年値にかわりまして、ちょうど10年後にスライドした形です。1991年から2020年、ですから、去年までの30年間を新しい平年値として使っております。5月から変わっているということです。

では、それによってどういう風に変ったのかというのが次のグラフで、こちらは北九州の八幡のアメダスです。八幡西区にありますけれども、そちらの年平均気温、1年間を平均した気温のグラフです。赤い線が毎年の値を示しております、ご覧いただくと1981年からスタートしていますが、昔に比べるとだんだん上がってきているという傾向がわかると思います。

そして、青いラインと黄色いラインを示しておりますが、これが平年値で計算している範囲です。先ほど示しておりました年を示しております。青いところが旧平年値、古い平年値で平均していたところで、気温がまだ低かった1980年代の中ごろまでを含んでおりますので、年間の平均というのが16.2度というのが平年値となっております。

それが今年の新しい平年値はどうなったかと言いますと、この気温が低かった1980年代を使わずに、気温が大変高い2010年代を計算に使うようになったということで、年間の平均気温が上がっております、新しい平年値は年間の平均気温が16.6度、0.4度上った値に変わっております。

次に、月別の細かい値を見ていきたいと思っております。こちら八幡西区のアメダスの月別



の平年値、古いものと新しいものを比較したものです。古い平年値とその隣に新しい平年値。そして、その隣に差を示しておりますけれども、ご覧いただくとわかるとおり、どの月も上がっているという状態です。年間で0.4度上がっておりますので、やはりそれぐらい上がっている月が多いのですけれども、特に大きい月を見てみると、5月は0.6度上昇しております。5月で気温が上がって30度越えるという年も多くなっておりまして、夏のような天候が早くやってくるという傾向になっております。

それから、0.5度上がっている月が2つあります。まず3月です。冬が終わって春が早くやってくる。3月の気温が高いと桜が早く咲くということで、最近、とても桜が早く咲く年が多くなっておりますが、そういった物にもこの3月の気温の上昇が影響しております。それから、10月の気温も0.5度上がっております。今年、最近でこそ急に寒くなってきましたが、10月の前半はものすごく暑かった。10月の中ごろまで真夏日があったりするという大変異常な10月だったのですけれども、10月もなかなか気温が下がらないということで「夏が終わらない」という傾向になっております。

ですので、春が早くやってくる夏も早く来て、そして夏がなかなか終わらないという傾向をこの平年値の変化は示していると思います。

次に、降水量の平年値の変化をご覧頂きます。降水量も左から古い平年値、新しい平年値。そして、その比較を%で示しています。これを見ますと月によって傾向が違います。春は青い字で示していますが、降水量が減っている月が多くなっています。

そして、6月から7月の梅雨の時期ですけれども、6月の降水量は11%減少です。7月は5%増ということになっております。6月、7月と申しますと梅雨の時期で、梅雨は6月でだんだん雨が増えていって7月に梅雨末期の豪雨があって梅雨が明けるという形ですが、それが前半と後半のメリハリがより大きくなっている。できれば、梅雨の間、平均的に降ってくれるというのが、1番災害がなくて水資源も確保できて良いのですが、どうもそ上手くいかない形になっている。極端な降り方をする傾向になってきております。

それから、8月ですけれども、これは私も大変驚いたのですが、比較すると18%増えております。大変大きな変化です。今年の8月を思い出していただきますと、8月の中旬お盆の頃、大変大雨が長く続きましたけれども、そういった8月に大雨が降るというケースが最近増えておりまして、この新しい計算に変わった2010年代のデータを見たのですが、8月、太平洋高気圧が不安定になったとき、大変な大雨が降っているケースが割合最近増えております。そういったものを反映しているんだと思います。

ですので、梅雨が明けて8月になっても大雨に対する気が抜けないという年が増えております。そして9月は11%減となっております。これは最近大きな台風の影響が少ないのかなというところがありまして、それが影響している可能性があります。

そしてその後、12月ごろ、冬は雨量増加の傾向、12月は12%増となっております。

冬は暖冬の年というのは雨が多くなりやすいです。低気圧の影響などありまして雨が多くなりやすいということで、冬の降水量が多くなっているということになります。

今度は、生物季節ということで、気象台でいろいろな植物の観測をしております。その平年値の変化で、こちらは福岡と下関の気象台で観測しているデータですが、先ほどもちょっとお話ししました桜の開花ですが、福岡・下関とも新しい平年値は一日早くなっています。やはり3月の高温などが影響して開花が早くなっています。

それから、秋のイチョウの紅葉については遅くなっております。福岡市では、新しい平年値8日遅くなって11月20日です。それから、楓の紅葉、こちらもやはり遅くなっております。福岡市は12月1日、下関は12月6日ということになっております。

そして、最初に冬の寒さ、この冬は寒くなりますよというお話をしましたので、そこで最後にこちらをご覧ください。九州北部の冬の気温、12月から2月の気温を並べたのがこちらのグラフです。やはり、昔に比べると最近高くなっておりますけれども、右を方に文字で示しましたが、最近の中で寒かった冬というのが4年前です。2017年の12月から18年2月。実はこの年もラニーニャ現象が起こっておりまして寒い冬でした。冬全体を通しますと、32年ぶりの寒い冬だったということになっていますが、このグラフをご覧くださいと、確か30年ぐらいつと空いております、32年ぶりだったのですが、その前はそれぐらい寒さの年は普通にありました。

ですので、私たちは暖かい冬に慣れてしまっているというところがありまして、久しぶりにそんな寒い冬があるとすごく寒く感じるのですが、実は最近の中で特別に寒い冬が1980年代の前半ぐらいまでは、むしろ普通にあったということが言えます。

それでは次に、地球温暖化と身近な気候の変化についてお話ししていきたいと思えます。まず、地球温暖化、温室効果ガスの話を少ししたいと思えます。温室効果ガスの代表的なものとして二酸化炭素がありますけれども、他にメタンなどがあります。真ん中の図で、現在の状況というのが、温室効果ガスがあつて、地球の全体の平均気温が14度ぐらいとなっております。

この温室効果ガスがもしなかったらどうなるかというのが左の図で、全くないと地球全体の平均気温-19度になると計算されています。ですので、地球は氷の星になります。

ですので、適度に温室効果ガスがあるという状態は良いのですが、右の図のようにさらに増えていくと気温が上昇して地球温暖化になっていく。これをなんとかふさがなければいけないということになってきます。

では、この二酸化炭素の濃度がどう変化しているのかというのがこちらの図です。こちらは、気象庁が日本の3カ所、岩手県の綾里という所と、南鳥島、そして沖縄県の与那国島です。3カ所で観測している値です。毎年の月の値を点で示しております、すごくギザギザしたグラフになっております。これが毎月の値です。3地点色分けしております。なめらかな線が引いていますが、これは傾向を示すために引いたものです。ご覧いただきますとだんだん上がっているという状態がご理解いただけるかと思えます。

この二酸化炭素の濃度がノコギリの歯のようにギザギザしているのは何故かといいますと、実はこれは植物の効果です。光合成のおかげです。冬、今、葉っぱが散っておりますけれども、

木葉っぱが減りますと植物の光合成が不活発になります。そうすると、大気中の二酸化炭素の濃度が増えてきます。だいたい毎年春先に二酸化炭素の濃度が1番高くなります。そして、そこから植物が葉っぱを作りまして、光合成が盛んになると二酸化炭素を使って酸素を作るといふ光合成ができますので濃度がだんだん下がってきます。また、葉っぱが散ると濃度が上がっていく。これは毎年このような変化をしています。こういう変化を同じところで毎年してくれればいいのですが、毎年確実に上がっています。ですので、春先の二酸化炭素濃度は、毎年、過去最高更新しているということになります。

それでは、このような濃度の変化によって世界の気温はどう変わっているかというのがこちらです。1890年ごろから130年ぐらいの世界の平均値を示していますが、ご覧いただくとわかるように黒い点が毎年の値ですが、右肩上がりのグラフになっています。100年あたり0.72度の割合で上昇しておりまして、特にグラフの右の終わりのところ、過去の傾向と比べても跳ね上がる形で近年気温が高くなっている状況です。過去、最も高かったのが2016年、ついで2020年、19年、15年、17年となっておりまして、ここ10年ぐらいは過去になかった気温の高い地球に私たちは暮らしているということを示しています。

では続いて、日本の気温の変化です。日本の平均気温は130年近くのグラフを示しておりますが、同じように上がる傾向になっています。傾向としては100年あたり1.26度という割合で上昇しております。先程の世界の値よりちょっと大きいのですが、これは地球の中でも気温の変化は大きい所と小さいところがありますので、日本ですと1.26度という上昇になっています。

同様に気温が高かった年ですが、1番高いのが2020年、ついで19年、16年となっておりまして、去年、一昨年、大変気温が高かったということになっております。

では、最も身近なこの北九州の気温の変化ということで、北九州市、先ほどのアメダスは八幡にありますが、真夏日と猛暑日の日数の変化を示しています。

まず、真夏日、最高気温30度以上ですが、真夏日は昔からあるのはありますが、やはり傾向としては赤いラインが傾向を示しておりますが、昔に比べるとやや増えている傾向になっています。夏が暑くなっているということです。

それから、下の赤いグラフは猛暑日、最高気温35度以上という日の日数を示しております。やはり、最近、多い年は続くようになってきております。1つ飛び出している年があります。これは1994年で、日本中が記録的な猛暑になった年です。渇水と猛暑に大変苦しんだ年です。ですので、この年だけは昔の中でも特別に1つ多かったのですが、最近はそういう特別な年でなくてもコンスタントに猛暑日が表れているということになります。

続いて、今度は最低気温の傾向です。熱帯夜と冬日の日数を示しています。まず、夏の熱帯夜、最低気温25度以上の日数ですが、ご覧いただくとわかるようにだんだん増えている。夏寝苦しい夜が増えているということになります。

それから、下のグラフは冬日です。最低気温が0度未満という日数ですが、昔に比べると

減っているということです。昔、よく氷が張っていたと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、そういう氷が張るような寒さというのが減ってしまっていて、実は、このグラフ 1 番右に 2020 年というところが、グラフの柱がなくなっております。去年は冬日がゼロだったという年です。実は、0.0 度というのが去年の大晦日にあったんですけど、冬日は 0 度未満ということになりますので、去年はゼロだったということになります。

ちなみに今年は、1 月に寒波がありましたので、1 月、2 月で 7 日冬日がありました。12 月も寒そうですので、もう少し今年は日数が増えるかもしれないという状況です。

では、次に雨についてのお話をしたいと思います。今度は九州北部地方で 1 時間 30mm 以上、あるいは 50mm 以上という雨が降った回数を示すグラフです。こちらは、九州北部のアメダス 1 点あたりの回数ということでグラフにしていますが、まず、1 時間 30mm 以上激しい雨と言われる雨ですが、年によって大雨があつたり無かつたりありますので、回数の凹凸は有りますが、赤いラインが傾向を示しております、やはり 1 時間 30mm 以上の雨というのが増える傾向にあります。

それから、下のグラフは 1 時間 50mm 以上という非常に激しい雨と言っておりますが、よく側溝が溢れたり、そういったことが起きやすくなるようですが、そちらをご覧くださいと、やはり最近高い柱の年です。グラフが高い年が多くなっておりまして、回数が増える傾向にあるということで、短時間に非常に激しい雨が降って、それによって浸水などの被害が出るというケースが最近増えております。

最近、大雨が多いのですが、福岡県で大雨特別警報が出たという事例をこちらにまとめてみました。福岡県内の大雨特別警報、今年まで 5 年連続出ているという状況です。

2017 年は朝倉市や東峰村で大雨が降った九州北部豪雨がありました。

2018 年は西日本の広域で大変な大雨が降った西日本豪雨、平成 30 年 7 月豪雨という雨がありました。そして、2019 年は佐賀県を中心に浸水・氾濫の大きな被害があつたのですが、筑後地方にも大雨特別警報が出ております。これは 8 月の下旬です。

そして、2020 年、去年は令和 2 年 7 月豪雨ということで、熊本県の球磨川が氾濫したり、あるいは大牟田市などで大規模な浸水が起こっております。

そして、今年は 8 月の中旬、お盆の頃にやはり大牟田などで総雨量が 1,000 ミリを超えるという大雨が降っております。

特別警報、これは市町村単位で出ていますので、県の中でも市町村単位で見ると、筑後地方が中心ですが、北九州市も 2018 年、この西日本豪雨の時は北九州市も大雨特別警報は発表されております。

こういった大雨に温暖化がどれだけ影響したのかという研究が最近されております。それを紹介したいと思います。これは、2017 年の九州北部豪雨の時点で、大雨の起こりやすさが温暖化によってどれくらい違っていたのかという研究です。

これは気象研究所がしたのですが、50 年に 1 度の大雨が起こる確率をコンピュータの中に 2 つの地球を再現します。1 つは、現実の温暖化の影響が含まれている現実の地球で計

算しています。もう 1 つは、温暖化がなかった、二酸化炭素の増加がなくて温暖化していないという地球をコンピュータの中で再現します。

そうすると、大雨の起こる確率というのが温暖化が含まれた場合は 2.8%、もし温暖化がなかったら 1.9%だったということで、温暖化によって起こる確率は 1.5 倍に増えていた。ですので、温暖化が無かったら大雨が無かったというわけではないのですが、温暖化が起こっていることによってこの大雨災害が起こりやすい状態になっていたということ示しています。

そして今年の 8 月の大雨がございましたけども、これについて気象庁が資料をまとめております。その中にこういう風にかかれております。黄色い部分ですが、これも気温上昇がなかったと仮定した地域圏と書いていますが、コンピュータの中の計算に比べて、現在の気候の状態を反映した計算にすると、降水量が明らかに多くなった。特に、九州地方において降水量の増加が顕著だったという事を示しています。

そして、地球温暖化に伴う気温上昇によって降水量が増加した可能性を示唆しているということで、やはり今年の夏の大雨にも温暖化が影響していたということ示しています。

それから、もう 1 つですが、こちらは温暖化によって 7 月の大雨の頻度がどれだけ変わっているのかという計算です。これも、温暖化が含まれた実際の地球と、温暖化がなかったと仮定した見本で、その差をとったものです。青が濃いところほど温暖化によって大雨が増えているというところを示しています。ご覧いただくと、九州は九州山地の西側で青が大変濃くなっておりまして、温暖化によってこういったところは特に大雨の回数が増えているということを示しています。筑後地方など、筑後川の氾濫など、内水氾濫などが続いているわけですが、そういった物にも温暖化が影響している可能性があるということ示しております。

では続いて、IPCC の第 6 次評価報告書ということで北橋市長の話にも出てまいりましたが、その話を最後にしたいと思います。ポイントをいくつかまとめました。

先ほどのお話にもありましたが、温暖化の原因が人間であることは疑う余地がないと初めて断定しております。それから 5 つの将来シナリオというのがありまして、この先、二酸化炭素をどれだけ排出していくのかというシナリオで、全てで 20 年以内に産業革命前より 1.5 度気温が上昇してしまう。ただし、早期に強力な対策を行えば今世紀後半の気温上昇は抑えられる。そして、地球温暖化が進むほど熱波や大雨、干ばつの頻度や強度が増すという事を示しております。

では、まず、この人間の活動が、大気、海洋および陸域を温暖化させてきたことに疑う余地がないと断定したということについてですが、この IPCC の報告書というのは、科学者が世界中の多くの気候の研究、地球温暖化の研究を取りまとめて、最新の知見を数年おきにまとめているというのが好評価報告書になります。

今回「疑う余地がない」という表現を用いていますが、この報告書の中は、全体を通してどの程度の確かさなのかというのがみんな書いています。結局、わからないこともあるし、

科学者によって意見が分かれているところもあるので、そういったものをまとめて、どれくらい確かに言えることなのかというのをみんな書いています。

その中で、人間活動によって温暖化が起こっている事の確かさというのがだんだん変わってきておまして、2001年の第3次報告書のときは「可能性が高い」という表現を使っておりました。確率としては66%以上です。

それに対して、2007年の第4次報告書になりますと「可能性が非常に高い」ということで90%以上になっております。

そして、前回、2013年から14年の第5次報告書では、「人間の影響の可能性が極めて高い」ということで95%としておりました。それが今回の報告書では「疑う余地がない」ということですので、もう間違いありませんよという表現でした。

なぜそんなことを言えるのかというのが次のグラフです。こちら先ほどと似ていますが、世界の気温をコンピュータの中に地球を再現して計算したものです。線が3本あって見難いのですが、黒い線が実際の地球の気温の変化を示しています。だんだん上がってきております。その近くにオレンジ色のラインがありますが、黒いラインとほぼ同じようなところを行っておりますが、これはコンピュータの中で再現した地球で、人間の二酸化炭素の排出と、あとは自然の気候の変動があります。海洋活動の変化とか、あるいは火山の活動です。そういった自然の変化をコンピュータの中に入れて地球の気温を再現したというのがオレンジです。そうしますと、ほぼ実際の黒いラインと同じところに。ですから、コンピュータの中の計算というのが、地球の気候をうまく表現できているということです。

そのオレンジのラインというのは、人間の活動と自然の影響を入れて計算していますが、そこから自然の影響だけにしてやる、人間の活動を抜いてやるということです。二酸化炭素の増加を抜いてやったのが下の青いラインになります。

ですので、温暖化していないと言いますか、人間活動の影響がない地球を仮想的にコンピュータの中で作ってやったというのがこの青いラインですが、横ばいかむしろ若干下がるという結果になりました。

ですので、この人間の影響があるグラフと無いグラフというのがこれだけ差が開いているということは、今のこの気温の上昇は人間活動の影響と見て間違いなだらうということを示しております。

では、この先どう変わっていくのかを示しているのが次のグラフです。5本のラインがあります。これは人間がどういう活動をしていくのかということで計算した将来の地球の気温5本を示しています。この5本のラインを見ていきますと、今の時点からいずれもまだしばらく上がっていきます。2040年頃までにはいずれも1.5度に達する、産業革命前に比べて1.5度上昇に達してしまうという計算になっています。パリ協定でも1.5度を努力目標にするということになってはいますが、これまでに出して二酸化炭素の効果があるので、1.5度まで上がるのはどうも避けられないようだというのが今回の結論です。

ただその先、今世紀末にかけてというのは、今からの努力によって変わるという事でありまして、このまま化石燃料に依存しつづけると今世紀末 4.4 度上昇です。

それに対して、現在の各国の CO2 削減目標となっております。これはコップ 26 開催前の各国が出していた削減目標で 2.7 度上昇となっております。今回のコップの中で中国やインドなどが表明した目標があつて、それを加えると少し低くなるのですが、それでも 2 度程度の上昇とみられています。

それに対して、早期に強力な、今すぐに強力に CO2 の削減をやれば、今世紀末で 1.4 度ぐらいに抑えられる。ですので、1.5 度から横ばいか若干下がる、そういったところに今すぐ頑張れば持つていけるということを示しています。

では、この気温の変化によって世界の雨などがどう変わるかというのが次です。10 年に 1 回に起こる極端な気象の頻度を示しております、これは産業革命前との比較で回数を示しています。

例えば、極端な高温ですと、現在、すでに産業革命前より 1 度上がっております。その段階で今 2.8 倍に増えていますが、これが 1.5 度上昇になると 4.1 倍、2 度上昇で 5.6 倍、そして 4 度上がると 9.4 倍ということで極端に増えていく。これは世界の回数ですが、極端に増えていくということになります。

そして、大雨についても現在すでに 1.3 倍増えている。これが 1.5 度で 1.5 倍、2 度で 1.7 倍、4 度で 2.7 倍ということで、気温が上がれば上がるほど頻度は増えるし強度も上がっていくということになります。

そして、干ばつも増えます。これが温暖化の怖いところで、極端な気象で大雨も増えるけど干ばつも増えるということで、干ばつについても増加というのが予想されております。ということで、1.5 度上昇してしまうというところにはなっているんですが、その先上がらせないためには今すぐに努力が必要ということで、ゼロカーボンを目指して行かないといけないということになってまいります。

ということで、私の講演は終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

MC：松井様、どうも有り難うございました。松井様といえば NHK の「はっけん TV」や「はっけんラジオ」でご存知の方も多いかと思えますけれども、いつも盤石で優しいかたり口の松井様に、今日会えると楽しみにしていらっしゃった方もとても多かったと思います。早い時間から皆さん、こんなにも会場埋め尽くすほど多く集まっていただきました。改めまして本当にありがとうございました。

それでは、これよりは 15 分間の休憩とさせていただきます。15 時 5 分頃よりパネルディスカッションを行いますので、お時間までにお戻りいただきますように、お願い致します。なお、御手洗は会場出ましたところすぐ右側と 1 階にもございます。なお、オンラインでご視聴の方々は一且退出をされた場合にも、お手持ちの URL より再度ご入室いただけます。それでは、15 分ほどの休憩となります。また後ほどよ

ろしくお願いいたします。

MC：皆様、お待たせいたしました。これより「私たちがつくるゼロカーボンシティ」をテーマにパネルディスカッションを開始いたします。

ご登壇いただいているモデレーター、パネリストの方々を順にご紹介させていただきます。

モデレーターを務めていただきますのは、先ほど基調講演でもご登壇いただきました、松井渉様です。

続きまして、パネリストには、北橋健治北九州市長。

北九州市コンポストアドバイザーの会、会長中島千雅様。

若松秋桜会、代表久永恵美子様。

北九州市立大学地域創生学群グリーンバード北九州チーム園田彩乃様、弓削美里様。福岡教育大学附属小倉中学校生徒会渡辺颯太郎様、内田麻桜様、持溝悠晴様、藤田彩花様。以上の皆様をお願いいたしております。

さあ、それではこれよりは、モデレーターの松井様に進行をお願いしたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

### パネルディスカッション 私たちがつくるゼロカーボンシティ

松井：それでは、ここからパネルディスカッションということで、私たちが作るゼロカーボンシティということをお話を進めてまいりたいと思います。

先ほどご紹介いただきました4つの団体、学校のみなさんが、様々な活動されております。脱炭素に向けた取り組み、あるいは環境に向けた取り組みをされておりますので、その取り組みをご紹介いただいて、そして、そういった取り組みをどうやって市民の皆様にも広めていくか。そいたことについて話を進めてまいりたいと思います。

それでは、はじめに、この脱炭素の取り組みということでご紹介いただきたいと思います。それでははじめに、中島さん、よろしくお願いいたします。

中島：コンポストアドバイザーの会の会長の中島でございます。今日よろしくお願いいたします。

私どもは、コンポストアドバイザーという言葉をよく使うんですが、一般にはまだまだ知られてない状況でございます。したがって、今日は簡単に、官民連携による生ごみコンポストの普及の状況という形をお知らせしたいと思います。

この取り組みは、元々はインドネシアのスラバヤに、北九州市と高倉弘二先生が行かれまして、当時のスラバヤの悲惨な状況になっているゴミ問題を解決しに行った。



このアジアにおける環境協力の推進事業としてスタートしました。

スラバヤもうまくいきまして、一般廃棄物が 32%の削減が実績としてあがりまして。そして、市民の環境意識も当然上がりました。そういう形で上手くいきましたので、スラバヤがうまくいったので北九州でもやろうじゃないかという取り組みがスタートしたわけでございます。

そのスライドに出ておりますけども、実際には、初めは一般市民の個人的な活動でした。個人的な活動ですから、みんな研究者は物凄く熱心ですが、一般の人はそこまでありません。その中で、市の環境局が官としての市民講座、市民センターで行えるコンポストの講座をうまくやっけていけないかと、スラバヤでやれた事は北九州でやろうじゃないかということで、指導者養成講座を行いました。この時は官手動で養成講座で私も 2011 年に市長から「コンポストアドバイザー」という賞をいただきました。そして、「今からどんどん活躍してくれよ」ということだったんですが、まだまだ個人的なボランティア活動の状態が強かった。それを 5 年ほど続けましたが、こういう形でやってもうまくいかないんじゃないかということで、コンポストアドバイザーの会を組織化しようということで、実際には、官と私たちコンポストアドバイザーの民が一緒になってやっけていこうじゃないかというのがスタートしました。まだここは 6 年ほどしか経っていませんが、昨年にはこの活動が環境大臣賞をいただき、あるいは 3R 推進賞をいただいて、たったそれぐらい活動したのに賞をもらって恐縮していますが、実際には、コンポストアドバイザーは、コンポストをするという事は何なのか。家庭から出るごみをどれだけ減らせばいいのかという取り組みをしていきたいという形でスタートしたわけです。

実際には、その行動は何なのかと。北九州は、1993 年にカン・瓶の分別をしました。その頃は、まだリサイクルというのがスタートしたばかりで、北九州市もエコタウンができて、受け入れもできて、みんな、分別で出してくれと。それから回収ができるという状況になったわけですが、なかなかうまくいきません。ペットボトルやトレイをリサイクルに出しても、実際にはご自分が出したところしかわかりません。それをなんとか変えていかないといけないんじゃないか、もっともっとリサイクルというのを皆の意識の中に入れていかないんじゃないかということで、食物のリサイクル。

わたしたちは毎日食事をいたします。そうすると、食事をすると作った残りモノ、調理残渣とかあるいは食べ残しなどが生ごみとして出ます。その生ごみをコンポストにすれば、今度は元気な堆肥ができて、おいしい野菜や綺麗な花が作れる。そして、作った状態で堆肥ができます。堆肥ができてそれを肥料として野菜や花を育てる。

そして、今度はその野菜を調理してまた食べる。この一人でするリサイクルです。誰もが一人でするリサイクル。これを謳っていけばもっと理解していただけるん

ではないかということをご提案いたしました。

それでは、コンポストってどうするのか、よく聞かれます。コンポストしたいけどなかなか難しいしね、という言い方をされます。私たちがやっているコンポストというのは、高倉式コンポストと言っています。先ほどの高倉さんがインドネシアで成功したのでその名前をつけていますけども、実際には北九州方式みたいなものです。

どんな風にするかという、まず、ホームセンターで売っているスーパーのカゴがあります。そこに絵が出ていますと思えますけど、かごにカーペットを入れます。廊下のフロアに使うようなカーペットですが、それをカゴに裁断して貼ります。

このカゴの特徴は空気を通してあります。そのカゴへ発酵床、腐葉土と糠を混ぜてカゴの中に入れます。これが菌の寝床になりますが、その横に発酵食品がでてきます。これは、高倉式コンポストの特殊なところは、こういう発酵食品を生ごみコンポストの中に入れて分解していく。例えば、**にょうき式**のコンポストや段ボール式のコンポストはこの過程がありません。この発酵食品というのは、まさに私たちが日ごろ使う菌です。これを入れてやることによって生ごみが早く分解していきます。毎日ゴミが出るとこのカゴの中に入れますが、夏場ですと次の日は何も見えないという状況になります。そういう菌を入れた籠を作って、その中へ毎日生ごみを入れていきます。

生ごみを入れていって実際にうまくいくには小さく切ること。それから生ごみの水分を取ること。それからコンポストの容器に入れてしっかり混ぜること。

1日に平均 500g ぐらいの食べ残しが出ます。うちは何のゴミも出ないという方がいますが、出ます。そういうものを混ぜ込んで堆肥化してうまく活動していければ、というコンポストアドバイザーの会の行動をしているところです。

松井：ありがとうございます。これはマンションのベランダでも大丈夫ですか？

中島：大丈夫ですね。例えば、プランターなどに花を入れて、ネギだとかそういうものを挿しておいて、それでこの堆肥で美味しいものができていくということが言えます。

松井：いいですね。私もマンション住まいなので

中島：ぜひチャレンジしていただきたいと思います。

松井：わかりました。ありがとうございます。では続いて、久永さん、よろしく申し上げます。

久永：はい。こんにちは。若松秋桜会の久永と申します。私のボランティアグループは、女性は大抵 50 人程度で、環境問題に取り組んでおります。会の結成は 1994 年ですから、もう 27 年近く経っております。こんなに長く続くとは、当時は全然思ってもいなかったんですが、そのボランティア活動に取り組むきっかけになったのが、皆さん、若松のひびき灘の 495 号線という道路、ご存知でしょうか。若松は大変海岸線は美しいのですが、そこがどんどん埋め立て地になって、海が遠ざかって、

少し殺風景な風景が広がってきて、なんとか若松の良さをもう少し北九州の多くの人に知ってもらいたいと思っている時に、このコスモスの花壇作りが始まりました。俗にいうコスモス街道です。

それで、私たちはそこに参加をしまして、そこからいろいろなことの気づきが、発見が生まれて今日まで活動して来たのですけども、女性ですから、やっぱり身近なこと、そして無理はしないということで、当初は、身近なことから出来る事からをテーマに、無理をしないで無駄をなくす、3R運動です。リリース、リユース、リサイクル。それを身近なところから見つけながら進めていこうということで、会の出発をしました。

下の方からご説明させていただきますが、下の左側は環境家計簿です。聞いた事がありますか。普通、家計簿は奥様がつけていらっしゃると思いますが、環境が頭につくとなんだろうと思います。実はこの環境家計簿との出会いが大きく私の会を環境へと引っ張ってくれたのですけども、1997年ですから平成9年にコップ3という温暖化、国連主催の気候変動枠組み条約会議が京都で開催されました。今月の11月には、イギリスのグラス号で26回のコップの会合がありまして、そう考えると23年も前になりますが、京都に私は行きました。もちろん、本会議場に参加はとんでもない、近寄ることもできませんでしたが、分科会は自由ですから「どうぞ」ということで、いくつかの会場を回りました。

その中で、驚いたことには地球の温暖化という言葉です。何となく遠くには聞いていましたけど、京都会議の中で京都市民の皆さんが取り組んでいる活動は、今日の基調講演の中にもありましたように、地球の温暖化をどうしたら私たちの手で止めることができるのか。そういう会合にいくつか参加しまして、本当に衝撃でびっくりして帰りました。

この北九州の地でできることがあるとすれば、この環境家計簿だということで、環境庁のものを取り寄せましたが、これが大変に複雑で難しくて、3ヶ月やりまして皆さん「出来ないわ」ということでしたが、これを何とかやらなくちゃいけない。特に、民生部門といいますか、一般家庭のインフラから衣食住の生活から出てくる二酸化炭素の排出が1番問題ですと聞いて、それだったら遠い話じゃない、私の家のことを考えなければ、じゃ、環境家計簿はやる価値があるねということで、若松秋桜会版の環境家計簿を作りました。それが画面下の数字ばかり入った地味なものがこれです。これを付けて3ヶ月ごとに若松の市民センターに集まってみんなで失敗談から成功談から、それからいろいろなアイデアを持ち寄って、本当に3ヶ月に1度離合集散が盛り上がり「さすが女性だな、こんな方法が良い」とか言いながら、そうしましたら、北九州市でもこの環境家計簿推進運動を考えているので、少しこれを貸してくださいということで、リメイクをして頂きまして、シンポジウムの開催でこれを広く広げましょうとなったのが右の写真です。これは若松市民会館

です。その時もパネラーとしてうちの会が作った環境家計簿の意図とするところを話してくださいという事で、シンポジウムの中でお話をさせて頂きました。

それを推進している中で、また 1 つ上の写真を見ていただきたいのですが、グリーンの中に鳥がさえずる緑の回廊植樹会と書いています。2006 年、平成 18 年ですけれども、この同じコスモス街道とちょっと重複連携している部分の場所もあったんですけれども、そこに植樹活動を始めよう。北九州市も植えれば町の 100 万本、森づくりが始まって、そのうちの 30 万本をこの若松でやろうと決まった。その前の月に、これが 3 月から出発したら、1 ヶ月前の 2 月 19 日に、なんと世界にこの 3R の言葉をもっとわかり易く言えば「勿体無い」という言葉がぴったりだし、地球のいろんな環境を守るには、この「勿体無い」を広げようと言ってくださったのが、ケニアの女性の環境活動家、ワンガリー・マータイ博士です。そのワンガリー・マータイ博士を若松市民会館にお呼びする事が出来て、市民フォーラムを開催しました。その時、壇上で、みんなでどんぐりの苗木に水をかけました。これを埋めて育てよう。それが翌月の 3 月の 18 日から出発したということです。

この画面には活動歴とか受賞歴を抜粋していますが、たくさんをその間は主婦で動いてきましたが、今、緑の回廊の話をさせて頂きましたので、平成 18 年 2 月、若松市民会館で北九州市民フォーラムを開催して、ワンガリー・マータイ博士を迎えるという事をさせて頂きました。本当にこれは、私は、木を植えるという事はすごく大事。今も脱酸素という話もありましたけど、人間がお話して呼吸するだけで二酸化炭素は出てくるわけなんですけれども、木は根本に二酸化炭素を集めて、そして成長した緑の葉っぱからはきれいな酸素を出して、そして人の心もきれいな環境も守ってくれるわけで、本当に植林活動の大きな意義を私たちは知ることになりました。

そして、目標の 15 年間で 30 万本植えましょう、ということが今年の 3 月にその目標を達成しました。これはたくさんの方が参加してくださいました。小学生を始め、中学校、高校、そして企業の多くの方たちが熱心に、毎年 3 月に家族連れで見えたり、ここは交流の大きな場にもなりましたし、その大きな力、団結といいましょうか、産学官民が分け隔てなくワイワイ言いながら植えてきたことが、本当に目標を達成して、私はこの回廊の事を、マータイ博士の言葉じゃないんですが、若松のグリーンベルト運動と呼ばせていただいて、また植えましたけれども、これが本当に育って地球の環境を守るためには、今からが本番の戦いだらうと思っておりますので、来月も年末ですがミーティングを行うようにしております。

それから、受賞歴ですが、自分のことはいい難いのですが、平成 18 年 6 月に地球環境の保全功労者環境大臣表彰ということで、今、都知事の小池百合子さんが当時環境大臣で、半蔵門ホテルの授賞式に行かせていただきまして、遠くから「ご苦労様」って労をねぎらっていただいて、直接お話をさせていただく機会もございましたし、

それから一番下、平成 31 年 2 月は、この北九州市において第 1 回環境首都北九州 SDGs award ESD 表彰までして頂いて、これはメンバーが元気になる勇気をもって、この活動を間違いなくやってきて良かったなという励ましの受賞にもつながっております。あと、こういった活動を繰り返して今日まで来ましたので、ご紹介させていただきます。

松井：ありがとうございます。環境家計簿というのは、生活の中で二酸化炭素がどれくらい出ているかというのを見える化するということなんですね。

久永：そうなんです。中島代表もずっと一緒にご苦労を重ねながらしたのですが、家庭で、電気・ガス・水道、それから車のガソリン、それから灯油、あとは生ゴミの問題ですが、そういったものをきちんと毎月書き出して、それぞれ二酸化炭素の排出係数があります。それを掛ければ、そして合計すれば、どのくらい我が家は二酸化炭素を排出して地球環境汚しているかということがわかるようになっている家計簿です。

松井：わかりました。ありがとうございます。

では続いて、グリーンバード北九州チームの園田さんと弓削さん、お願いします。

グリーンバード北九州：皆さんこんにちは。グリーンバード北九州チームの園田と弓削と申します。よろしくお願いします。

まず、グリーンバードとはということで、グリーンバードとは、きれいな街は人の心もきれいにするというコンセプトをもとに、原宿表参道の発信のプロジェクトになります。日本各地にもありますが、世界にも活動拠点地があります。

グリーンバードの活動の目的は、写真が見にくいと思いますが、この参加者と運営がお揃いの緑のビブスを着て、軍手もお揃いでつけていて、お揃いのビブスと軍手を着用して、参加者が楽しそうにゴミ拾いをしている姿を街の人に見てもらって、「ポイ捨てって格好悪いな」という風に思ってもらう。単純に私たちはゴミ拾いをして街をきれいにすることだけではなくて、そのポイ捨てをする人の心も変えるということが目的である、そういうゴミ拾いだけではなくてポイ捨て禁止啓発活動になっています。

私たち、グリーンバード北九州チームは、小倉駅周辺を掃除する小倉、北方駅付近を掃除する北方チーム、黒崎駅付近を掃除する黒崎チームと折尾駅付近を掃除する折尾チームの 4 つのチームに分かれております。各チーム、高校生や大学生が主体となって運営をしております。グリーンバードリーダー会議 2019 で、私たち北九州チームは、お掃除回数、イベント回数で全チームの中で 1 位の実績をいただいております。

グリーンバード北九州チームの特徴としては、まず、運営と参加者の中がとても良いということです。参加者でも長年参加してくださる方もいれば、「最近、来た」という参加者も多いのですが、お掃除中にコミュニケーションたくさん取ることによって、参加者と運営も仲が良いですし、参加者同士も仲良くなる人が多いです。

また、北九州の多数の企業とのつながりがあるということで、例えば、モノレールさんや九州電力さんなど、たくさんの企業さんとコラボしてイベントを開催しています。さらに、最近では SNS に力を入れていて、イベントの宣伝や参加者とのコミュニケーションをとっています。

去年からコロナ禍で通常のお掃除の活動ができない中では、コロナ禍でオンラインでできる活動をしていました。具体的には、グリーンボードコンテストというイベントを開催して、これを一般の方から SNS でグリーンボードに関するイラストや川柳を募集してそれを投稿したり、あとはポイ捨て禁止啓発ポスターを作製して様々な場所に掲載していました。

もう少し詳しくお話ししますと、グリーンボードコンテストは、グリーンボードに関するもの、ポイ捨て啓発、ゴミの分別促進に関するものの川柳・イラストを参加者から募集して、グリーンボードの公式 SNS に掲載しました。

これを行った目的は、これまで長い間参加者さんをつなげてきた絆というのを、コロナ禍で活動できないようになって途絶えてしまうというのは私たちにとっても寂しいですし、寂しいことだなと考えたため、オンラインでも参加型のイベントを実施しようとなりました。

もう一つのポイ捨て防止啓発ポスターとチラシも、モノレール各駅や九州電力様に掲載させていただきました。

SNS 活動については、SNS を用いてイベントの告知や活動の様子を紹介しています。今までは、ポスターやチラシを作成して通常の活動に参加してくださった方に紹介するだけでしたが、もっと多くの人にイベントに参加してほしいというのと、そのイベントをきっかけに通常の活動にも参加して欲しいという思いから、SNS で幅広い方々にグリーンボードの雰囲気や情報を紹介しようということで、SNS に力を入れていました。

また、SNS を通して参加者とコミュニケーションをとることもできました。活動ができなくても、その SNS を通してつながりを維持することができます。

そのようにグリーンボード北九州チームは活動をしています。

松井：ありがとうございました。私も SNS を拝見しましたが、10 月はハロウィンということで仮装してみんなでお掃除をしている様子もありました。全国の中でも活発に活動ができているポイントはどのようなところでしょうか。先ほど、仲が良いということもありましたけど、そういうところですかね。

グリーンボード北九州：そうですね。仲が良いということと、あとは先輩方の代からいろいろな企業様とのつながりを作ってくださっているのと、そのイベントも開催が高齢になっていって維持できているのかなというのと、あとは参加者から「またあれをやりたい」とか「これをもう一回しよう」とか、ハロウィンのイベントにも行きたいという風に言ってくれるので、それで維持できているのではないかなと。

松井：ありがとうございました。それでは続いて、小倉中学校の生徒会のみなさん、お願いします。

小倉中学校：こんにちは。私たちは福岡教育大学附属小倉中学校生徒会です。只今より、SDGs の観点のもと、生活の質を高める脱炭素を進めてきた取り組みを紹介します。よろしくをお願いします。

まず、T シャツスカイ大作戦を行いました。どんな取り組みかという、地球温暖化に伴う平均気温の上昇、猛暑日の頻発化だけではなく、コロナ禍による行動様式の変化式、マスクの着用が求められました。日常の生活にも大きな変化を余儀なくされ、猛暑の中、熱中症にも気を払い、暑い中のマスクを着用しながらいかに授業に集中するかが大きな課題となりました。

生徒会役員で会議を行った際に、まず「日陰を作ろう」から始めました。その後、家で要らなくなった古着を利用しては、気化熱を利用しては、色を意図的に綺麗に並べてみると、見た目も心も清潔感が保てて涼しくなるのではないかとありました。それで、この T シャツスカイ大作戦の取り組みを行いました。集まった古着は、生徒や保護者のご協力によって 300 枚以上でした。

また、理科の学びを生かしたプロジェクト概要などを全校生徒のみなさんに伝えるために、学習委員会が作成しました附属小倉中学校で回収した古紙から作られた再生紙で印刷し、これは生徒会だけがこの T シャツスカイ大作戦にかかわるのではなく、生徒全員が SDGs の理解を深めるということで、これを作成しました。

また、干していた古着は最終的に寄付にしようと考えていました。汚れているのは困るだろう、清潔な状態で届けたいという思いから、シャボン玉石けん様との連携につながりました。市販の洗剤を大量に使うのではなく、自然環境に優しく、地域の河川や海の環境保全を守るためにも、シャボン玉せっけんさんを利用しました。全校生徒が体験できるよう、保健委員会を中心に「洗濯グランプリ」を企画し開催しました。9 月下旬に行いましたが、新年度になり感染対策をしっかりと行いながら、コロナ禍における全校で取り組む初めての行事となりました。

これによって SDGs の理解や関心、興味が、生徒全体、学校が高まった行事でした。

また、このシャボン玉石けん様の共同プロジェクトについても保健委員会が発信し、地域との企業の連携についてなど、詳しくわかりやすくまとめました。

また、執行委員会が世界を彩れ T シャツ再生プロジェクトの活動内容をまとめ、全校生徒に発信しました。また、この活動はテレビでも放送され、大きな反響がありました。

今年度も新型コロナウイルスが収束せず、猛暑の中での学校生活が始まりました。

そこで、今年中は庭で T シャツスカイ大作戦を、直射日光が当たるグラウンド側ではグリーンカーテン大作戦の合わせ技に挑戦しました。

猛暑の中での授業への対策だけでなく、コロナ禍での新しい省エネ対策として企画

しました。利用するものは学校にあるものや廃材で揃えました。カーテン用のネットは、各部活動で使われなくなったもの、稲の支柱は廃材となった市内の竹やプラスチック傘の骨、土はグラウンドの腐葉土などです。肥料には、今日、お見えになっているコンポストアドバイザーの中島様、塚田様にご指導・ご協力して頂き、高倉式コンポストを作りました。隣接する附属小倉小学校で、給食を作る際に出る生ごみを、堆肥の原料として活用しました。

今後は、収穫した種にメッセージを込めて近隣施設に配布し、SDGs 推進活動へとつなげていきます。

附属小倉中学校でグリーンカーテン大作戦でとれた種を SDGs の形にして作ってみました。このパッケージは、カミクルとコラボで使ったカミクル製品を使って作っています。

次に、地域や企業との連携など、市民参加

松井：すいません。それまた後ほどで良いですか。

小倉中学校：わかりました

松井：すいません。それでは、今、活動をご紹介いただきました。生徒会のみなさん、ありがとうございます。

ということで、4 つの団体、そして学校のみなさんの活動をご紹介いただきました。北九州市もいろいろな取り組みをされているかと思いますが、北橋市長、いかがでしょうか。

北橋市長：大臣表彰を受けられたり、SDGs の表彰、また、学生表彰など、環境のボランティア活動の中でも本市を代表する素晴らしい皆さんのお話を聞いておまして、本当に環境の市民力というのはすごいなと。こういう力を大きく育てて来ていただいた諸先輩にも深く感謝したいと思っております。

これから、脱炭素という大きな目標に向かっていくわけではありますが、まずは身近な日々の生活、ライフスタイルをもう一度見直して、うまくもうちょっと工夫できないかという事を積み重ねていく歩だと思えます。その中で、最初の生ごみコンポストもそうでしたけども、1 人 1 人のあれで進めていくのも大変だし、ここで組織を作るという工夫をされた。これから、脱炭素、ライフスタイルの見直し、いろんなことをするにも 1 人でも多くの仲間と一緒に行動していくことの大切さというのを改めて感じました。

また、若松秋桜会で環境家計簿の推進、あるいは植樹をされておられます。今、カーボンオフセットということで、もちろん、炭素を地道に減らすのですけども、木を植えると CO2 を吸収できる。古い木はなかなか吸収しないので新しく植林しようという話があって、ある道の駅に行くと、1,000 円のものを買うと必ず 1 円プラスで出します。そのお金をためてどんどん山に新しい木を植えているというのがありますが、やはりコスモスを植えたり、私たちの街並みをさらに彩ると言いますか、



よい街並みにするという運動を通じて、今度は、鳥のさえずる回廊ということである地域は注目されていますし、これは脱炭素の大きな植樹、植林ということにもつながっていくのではないかと思います。

また、環境家計簿ということですが、何トンと言われてもCO<sub>2</sub>は目に見えませんので、なかなか身近な話じゃないととっつきにくいかもしれません。でもやはり、身近なライフスタイルの中で気づいてもらう。そういう地道なツールと言いますか、そういった意味で成功されてきたのではないかと思います。

また、学生さんが楽しそうにゴミ拾いをされる。この「楽しそうに」というのは非常に良い言葉だと思います。

門司区のレトロ地域で、みんな集まってゴミ拾いを始めたところ、何が起こったかという「きれいになった」というより、そこで落書きをしたり、いたずらをする青少年の数が激減したというわけです。皆様方の背中を見て、深く感じる人はたくさんいると思います。そういう意味でも皆様の活躍は素晴らしいなと思いました。

また、中学校で古着、ものすごく先駆的な取り組みで、古紙もそうですけどもすごく綺麗な紙にリサイクルできます。古着もそこからポリエステルができますので、むしろそういうものをして、そこに有名ブランドがコラボを組めば、世界的な大ヒットするような衣類が日本から北九州からできるのではないかと考えていたのですが、その古着に着目をされた、活動をされたということは、脱炭素の大きな戦略にこれからも繋がっていくように感じました。大変心強く頼もしく思っております。ありがとうございました。

松井：ありがとうございます。それぞれの団体、とても身近なところから脱炭素に向けた活動をされている、という事をご理解いただけたのではないかと思います。

それで、時間がとても足りなくなっておりまして、素晴らしい話を聞きながら内心どうなるんだろうドキドキしていました。ここからは急ぎ足で参ります。

それでは、ここからはこの活動を市民にどのように促していくか、広げていくかということでお話をしていきたいと思います。

それでは、中島さんよろしいですか。広める活動ということでお願いします。

中島：私たちは、コンポストアドバイザーという形で、上のほうに主催事業と書いていますが、環境局から市民センターなどでコンポストの講座をしてくださいという申し出をしてもらって、手を挙げていただいた市民センターが、私たちアドバイザーが講師となって講座を開いています。市民の方はその市民センターに来られるわけですけども、座学という形で、先ほど高倉式コンポストの絵が出ていましたけども、それらを見せながらお話をします。

そして、実際に参加者に作ってもらわないとダメなので、写真では籠の中の生ごみを混ぜておられますけど、そういう講座をして、その講座をしたことでどんな状況だったかを、我々コンポストアドバイザーも終わってからみんなで反省会をします。

実際には、10分程度のこともありますが、今日の受講者はどうだったか、わかっていただろうか、ということも含めて、講座は2回あります。1回目があって1ヶ月後にもう一回あります。ですから、私どもは市民センターで2回、3回と出向いてこの講座をしております。

それから、講座とは別に地域でいろいろな取り組みをされています。市民センターでの文化祭やエコステージが市役所の大濠のそばですが、そこにテント張らせていただいて、実際に生ごみのコンポストを見てもらって、これに入れたらこういう風になる、臭いは出ないよねとか、色々な事を見ていただいてアンケートを取ります。来られた方に毎年200件のアンケートとって、お帰りになった市民センターに「お宅の地域の方が来られましたよ。どうぞ、コンポストの講座をしてください」という取り組みをします。

最後にはスキルアップと言って、私たちアドバイザーが技術的にちゃんとできているか、みんなで話し合おうじゃないか。それから、定例会というのは、アドバイザーが毎月1回市民センターに集まって、お知らせする仕方はうまくいったのかとか、細かな事まで詰めて、籠を作るときにうまくいったのかという打ち合わせをして、かつ、その講座のフォローアップをやっていきます。そういうことをすることによって、アドバイザーの人材育成にもなりますし、その地域の皆さんのコンポスト活動が増えていけばと。

現在、受講者は7,500人ほどいます。1年間に500gずつゴミを出したとして、年間で180キロの生ごみをゴミに出さなくて済みます。という事は、パッカー車で運搬することもなく、CO2も削減されたという効果があるので、それを早く一般の市民の皆様へお知らせしていくことが重要じゃないかと考えております。

どうぞ皆さん、コンポストを体験していただきたい。ぜひ、よろしくお願い致します。

松井：有り難うございました。市民センターと連携してその市民に講座などで広げているということですね。続いて、久永さん、よろしく申し上げます。短めに。

久永：この2枚の上と下、これは先ほど広げるということで、私たちが継続している活動をご紹介しますが、上のほうは北九州ESDまなびとステーションの中で開催しております。得する街なかゼミナール、魚町の商店街を中心にやっているゼミナールです。こちらで参加者を募集していただきまして、風車作りをやっていきます。それは、使用済みのペットボトルを使ったものです。これは、小学校でも環境学習、4年生を対象にした学習を10年間続けて、毎年12校の小学校を回ってきました。それで計算してみると、1万人近くの子供たちと風車作りをしながら地球温暖化の話とか、色々な事をキャッチボールしながら続けてきましたし、ここは魚町ゼミナールの中で、お父さんやお母さん方と一緒にワイワイと会話をしながら作っている所です。

下は、クールチョイスという推進月間に、クールチョイスは賢い選択、温室効果ガスの削減をテーマにした新国民運動ということですが、これは紫側の川底が見える近くの場所ですが、ここでも子供達にいろいろと環境の対話をしながら、環境ってなんとなく地味じゃないですか、なんか暗い感じもするので楽しくないと子供さんに聞いてもらえないと思って、これをやると本当に芸術的な素晴らしい風車を作って、すごいなとこちらの方が感動して帰るのですけども、やっぱり、未来の環境人に育ってもらいたい、そういう願いを込めながらこういう活動をしております。

松井：有り難うございました。ESD まなびとステーション、そういったところを中心に市民に活動しているということですね。ありがとうございます。

続いて、グリーンバードの園田さん、弓削さん、お願いします。

グリーンバード北九州：よろしく申し上げます。私たちは、市民参加を促す取り組みとして、まずポイントカード制度を取り入れています。新規参加者に1枚ずつお渡ししているポイントですが、参加することに1ポイント貯まります。そのポイントが貯まると近くの協賛店舗の割引券やグリーンバードのグッズなどをお渡ししていただきます。

もう一つは、ゲーム性を取り入れることです。参加者が20名ほどいますが、その参加者が一途にゴミ拾いをするのではなくて、2、3チームに分かれて各ルートを掃除してもらうのですけども、その中で優勝したチームには、さらに先程のポイントカードに1ポイント追加させていただいて、後ほどあげる活動のSNS報告に記念撮影した優勝チームの写真を載せさせていただいております。

先ほども園田から話があったように、企業様とのコラボイベントを行っております。1つ目は北九州高速鉄道株式会社様のコラボイベントです。いつも私達は小倉駅付近を掃除しているのですけど、このイベントに関してはモノレール全域の各駅周辺の掃除を行っております。3ヶ月に1度行っているイベントです。来月の12月18日にも行われる予定です。

次は九州電力株式会社様とのコラボイベントです。これは、九州電力株式会社の中にある「こらぼらQでん」という活動と、グリーンバードのコラボイベントです。

毎年、定例イベントにはなっているのですけど、毎年、毎年、違うことをやっているんで、気になった方は参加していただけると嬉しいです。

松井：有り難うございました。企業とコラボすることでいろいろなイベントを開催されて、そして市民に広げているというお話でした。それでは続いて、小倉中学校の生徒会のみなさんおねがいします。

小倉中学校：こんにちは。只今より、SDGsの関連のもと、地域や企業との協働・連携など、市民参加を促す取り組みに関する取り組みを紹介します。

今まで、学級や職員室で不要となった古紙を回収していました。しかし、裏紙として再利用できるものもありますが、毎年大量の古紙を廃棄してました。紙の使用

量を減らすのはもちろんのことですが、私たちの学びを深めていくためにも紙の活用は欠かせません。地球温暖化が叫ばれる中、森林などの自然環境を守るためにも、持続可能な社会を創造する一員として、また学びの環境を整えつつ何ができるのか、対応策を考えていました。

現在、Epson 様の乾式オフィス製紙機 Paper Lab を中心としたアップサイクルプロジェクト「KAMIKURU」の協働企画参画しています。

ペーパーラボのキックオフ会では、生徒会との協働企画の説明、Paper Lab の紹介をプレゼンしました。また、私たちはインドネシアのスラバヤで開催されたオンライン環境ワークショップに参加して、全て英語で私たちの学校の取り組みを紹介しました。

今までの取り組みを SDGs の観点でもう一度見直し、各教科での学びをつなぎ合わせ広げることができました。自然環境にも優しく、地球温暖化対策にもなる取り組みとして、学校で出た古紙を再生紙へつなげることができました。

教室で出た古紙だけではなく、職員室や研究室などで出た古紙も、整備委員会を中心に回収し再生紙として利用できる古紙を仕分けています。仕分けた古紙は、NPO 法人わくわく様でもう一度仕分けを行い、乾式オフィス製紙機 Paper Lab で再生紙として生まれ変わっています。

再生紙は、授業の学習プリント、技術の教材、学級通信、職員会議や研究発表会でのペーパー仕様、また、紙製品を提案させていただいたのですが、その中の 1 つがこちらのランチョンマットです。このランチョンマットの裏にはクイズが載っていて、これは学校の授業の一環として考えたもので、このような所でも「KAMIKURU」プロジェクトが関わっています。

また、アップサイクル製品、先程のアップサイクル紙製品の製造・広報企画を提案するために、社会科、国語、道徳などの各教科で学びをつなげていきました。製品の良さを活かしてより良いものに生まれかわらせるアップサイクルは、持続可能な社会を作っていくための希望の光です。

これからも市民の一員として SDGs の取り組みを推進し、人と人を繋げ、これからも学びをつなげていきたいと思えます。

松井：生徒会のみなさん、ありがとうございました。企業と連携することで学校で使う紙を再生紙で、そして循環させているというお話でした。

4 つの団体、学校の皆様のお話を伺いましたけども、地域や企業、そういったものと連携することによって、活動をさらに市民へ広げようとしているということがおわかりいただけたと思います。

それでは、大変短い時間でみなさんも急ぎ足になって申し訳ございませんでした。

今日のお話ですけども、身近なところから活動されているということがお分かりいただけたと思います。そして、北九州市、色々な環境の活動されている団体、学校、

企業、市役所も熱心にやっておりますので、そういったものが連携してさらに活動が市民に広がっていけばと思います。

それでは、パネルディスカッションはこれで終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

MC：どうも有り難うございました。それではここで、モデレーター、パネリストの皆様にはご降壇をいただきます。ご来場の皆様には、改めてモデレーター、パネリストの皆様には盛大な拍手をどうぞお送りください。

お時間の都合上、用意されたことすべてが発表できなかったところもあったかも知れませんが、会場にいらっしゃる皆様も本当によくうなずかれたり、スクリーンを食い入るように見られたり、また、メモを取られる方も本当に多かったです。

今日は、皆様方の発表に基づきまして、素晴らしい気づきの一日になったことに違いはございません。大変貴重なお時間を頂きました。本当にありがとうございます。いろいろな視点からの取り組みを皆様がたには改めてご確認をいただけたかと存じます。それでは、これより最後となりますが、北橋市長から閉会の挨拶をさせていただきます。

## 閉会挨拶

北九州市長 北橋健治

一言お礼を申しあげたいと思います。皆様には、最後までタウンミーティングにご参加をいただきましてありがとうございました。時間が押している中でありまして、それぞれの市民グループ、ボランティアの皆さん方が、実に素晴らしい活躍をされていることについて、私たちは改めて共有することができたと思っております。

今日のお話を聞いておりまして、いかにしてこの素晴らしい試み、成果というものを、あまねく市民の方々に知っていただくか。そして、その活動をさらに大きく広げていくために、私たちに何が出来るかということを改めて感じております。

環境という言葉は、いま、世界の広がりを持ってSDGsという言葉の中に含まれておりますが、脱炭素もその中にあると思っております。SDGsのクラブを作りまして、どなたでも気軽にそこに参加できる。そして意見交換をしたり情報を得られる。そういうクラブを作って、今、1,500以上の団体、個人が加盟していただいているのですが、これをどんどん大きく広げてそういう場などを活用して、今日の皆様方の素晴らしい活躍の一端をもっともっと知っていただきたいなと感じております。

これからもあらゆる世代が脱炭素に取り組むわけですが、とりわけ、グretaさんみたいな活動があると市役所としてもどうしようかと思いますが、しかしZ世代の方々が相当心の中で思っている。そのZ世代の方も含めて、高齢者の方も一緒になって1つの目標に向かって良いスクラムを組めればいいな、という事を今日改めて感じております。皆様方のご理解とお力添えが頼りでございますので、今日を契機といたしまして、またひ

とつの大きな目標に向かって環境モデル都市、SDGs 未来都市としてしっかりと歩んでいきたいと思っておりますので、皆様方のますますのご活躍、ご健勝をお祈り申し上げたいと思います。今日は誠にありがとうございました。

MC：北橋市長、本当に有り難うございました。それでは、以上を持ちまして、令和 3 年度タウンミーティング「市民環境力によるゼロカーボンシティの実現に向けて」を閉会いたします。本日は長時間にわたり会場とオンラインにて、お付き合いいただき誠にありがとうございました。

さて、冒頭でご案内しましたとおり、アンケートの回収を会場出口で行っております。また QR コードでの回答でも結構でございます。ご提出にご協力をよろしく願いいたします。

本日は長時間にわたりますお付き合いとなりました。本当にありがとうございました。

終了